

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0909
施設名	小松川おひさま保育園
施設所在地	江戸川区
法人名	社会福祉法人えどがわ

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

造形あそび（カプラブロック遊び）

1歳児つくし組

<テーマの設定理由>

・カプラ遊びに興味を持つ

### 2. 活動スケジュール

12月10日・1月26日・1月29日その他自由遊びでも行っている。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内の自由遊びで取り組めるように保育室内にカプラを用意した。

また、カプラが崩れていく様子を楽しんでいる児が多かったので人形ブロックを用意し空洞の中に入れて出てくる楽しさが足されるようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

室内の自由遊びで取り組めるように保育室内にカプラを用意していった。子ども達のみでは、まだ上手く扱うことが難しいため、保育者が共に遊んでいる。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者と友達と共に一緒に遊ぶ中で高く積み中央の隙間に玩具を入れ、崩れた時に玩具が出てくる面白さを周囲と共有している。その後同じ遊びをしていると中央に玩具を入れてもいいか聞く児が増えている。他児が積み上げている時には別の物を作ることを保育者が提案することもある。タワーが崩れていく面白さやカプラがぶつかり合う音を楽しむ姿もある。保育者が積み上げていると子ども達も手伝おうとカプラを渡したり、次第に保育者の真似をして積み上げていくような姿が見られ、次第に他児と一緒に遊ぶ場面が増えている。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

カプラを重ねていくことで指先の発達、カプラの向きを変える際に手首をひねる動作が上手になってきているように感じる。また、ぶつからないように気を付ける慎重さも見られるようになってきている。友達同士で遊ぶ姿も見られているが、崩すことを目的にしている児と高くすることを目的にしている児がいる為、一緒に遊ぶ難しさも感じた。また、崩れて悲しい事を共有しながらも再度やり直せば良いことを伝えていったことで、気持ちを立て直せる児も出てきている。

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0909
施設名	小松川おひさま保育園
施設所在地	江戸川区
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

・造形遊び  
  
2歳たんぽぽ組

<テーマの設定理由>

・想像力を膨らませながら造形遊びを楽しむ。  
・指先を使った遊びを楽しむ。

## 2. 活動スケジュール

12月11日・1月15日・2月2日、4日、18日  
日々の自由遊びでも実施。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内の自由遊びで取り組めるよう保育室にカプラのコーナーを設定した。また、初めは遊び方が分からずカプラ遊びに対し消極的な子も多かったので、まず保育士が子ども達の傍で遊び関心が持てるようにした。  
少しずつ遊びの広がりがなくなり飽和状態になる事もあったので、他クラスと一緒にホールでカプラ遊びの機会を作ったり、保護者会で保護者と一緒に楽しむ機会を設定した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

保育室での自由遊びの一環としてカプラ遊びを取り入れ保育士や友達と関わりながら遊ぶ事が出来た。また、異年齢と交流しながらホールの広い空間でダイナミックなカプラ遊びを楽しんだ。保護者会ではホールにて親子で取り組み更に遊びが広がったり関心も深くなった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

始めは保育士と一緒に積み上げる事を楽しんだ、次第に並べたり想像力を膨らませて自分たちで楽器を作ったり家を作ったりする事を楽しんでいた。また、積み上げる事に慣れてくると保育士が介入しなくても友達同士で協力し自分たちの背より高く積み上げ、達成感を味わったり、高く積んだタワーを倒しダイナミックな遊びも楽しむ様子が見られた。異年齢児と一緒にカプラ遊びを行った際は、並べ方の工夫や役割分担の仕組み等を見て真似る姿もあった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

遊び始めたばかりの頃は単純な遊びが目立っていたが、日を追うごとに自分たちの工夫や想像したものを形にしようとする意欲が見られた。また、カプラを通じて崩されてしまった残念な気持ちやだんだんと高くなる事へのワクワク感、時には友達と思いが食い違いトラブルになる事もあったが様々な感情を得ながら楽しんでいた様を感じる。異年齢交流や身近な大人と行う事が更なる成長に繋がっていったと感じる。

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0909
施設名	小松川おひさま保育園
施設所在地	江戸川区
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

造形あそび（カプラブロック遊び・廃材遊び）  
3歳児すみれ組

### <テーマの設定理由>

カプラ遊びを通して友達と関わり想像力を膨らませ楽しむ

## 2. 活動スケジュール

8月6日・8日 10月22日・29日 12月10日・12日 1月9日・14日・23日 2月2日・6日・17日

日々の自由遊びの中でもカプラ遊びを取り入れている

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子ども達がいつでも遊ぶ事が出来るようにすぐに手の届くところにカプラを設置した。  
また、片付けの際に作ったものを壊さなければならないので時間を決めて作ったものをそのまま保管出来るよう保育室の環境を整えて遊びが中断されないような工夫をした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

保育室での自由遊びの一環としてカプラ遊びを取り入れた。次第に保育士や友達と関わりながら遊ぶようになり、想像を膨らましなが楽しんでる。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

はじめは線路や道など平面の好きなものを"個々で"作って遊んでいたが、保育士がカプラを積み上げている姿を見て興味を持ち、子どもから「やりたい」と声が上がった。立体を作るのは少し難しかったので共に立体のものを作ってみると次第に自分たちで家やコンビニ等の想像したものを作るようになった。また、それらを道で繋げて街づくりへと遊びが発展した。個々の遊びより友達と協力して大きな1つのものを作り上げる楽しさを知った。異年齢児でカプラで遊ぶことによりカプラの遊び方の幅が広がり積み上げ方や見立て方も変わっていった。保護者会では、親子でカプラを行いカプラ遊びを知ってもらい実際に一緒に遊び事で楽しさを共有していた。

遊び終わった後もとても丁寧に片付けをしカプラを大切に扱っている。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

作り上げる達成感や壊してもまた作ればいいと思うチャレンジ精神が養われた。

また、遊びを通して友達との関りも増え協力し何かを作り上げる楽しさも味わうことが出来た。

見立て遊びも上手になりどうやったら建物や乗り物が出来るか等友達と話し合ったりし想像力も高まった。

片づけもしまっただけでなく次に使いやすい様に綺麗に並べてしまうようになった。

カプラを通して異年齢児交流に繋がり、一緒に遊ぶことでカプラで物を作る作り方も学ぶ姿もあった。

引き続き、遊びが広がっていくよう取り組んでいきたい。

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0909
施設名	小松川おひさま保育園
施設所在地	江戸川区
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

・造形あそび（カプラ）  
4歳児ちゅうりっぷ組

<テーマの設定理由>

- ・工夫をして高く積むことを楽しむ。
- ・想像力を膨らませて街づくりを行う。

## 2. 活動スケジュール

8月7日、10月3日、11月25日、12月19日、2月19日  
日々の自由遊びの中でもカプラ遊びを取り入れている

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内で自由にカプラ遊びが出来るようにしていった。遊び方やルールをクラスで決めてみんなで守ることが出来るようにした。はじめはカプラ遊びに興味を持つ子が少なかったのですが、保育者が傍について一緒に作っていくと興味を持つ子が多くなっていった。異年齢児と一緒にやる機会を作っていた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

保育室での自由遊びの一環としてカプラ遊びを取り入れ保育士や友達と関わりながら遊んでいた。また、異年齢と交流しながら楽しんでいた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

はじめはカプラ遊びに興味を持つ子が少なかった。保育者が一緒になってカプラの蓋の図の家のようなものや車を作ると少しずつ興味を持つ子が多くなっていき、子ども同士で色々な物を作る姿が見られていった。はじめは見本のあるものを作っていたが、遊び慣れてくると「神社作ろうよ」「ディズニー作ってみようよ」などと想像したものを作ることを楽しんでいた。建物が完成すると道を繋げて街づくりに発展していった。タワーや建物、街など一人で黙々と作る子もいるが、友達と協力をして作る楽しさも味わうことが出来ているように感じる。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

作るにはどのように重ねたらいいのか、どんな形にしたらいいのかなど工夫をしたり想像力が養われた。友達と協力をすることや完成させることが出来た達成感を味わうことが出来た。バラバラに片付けるのではなく、次回使いやすいようにきれいに並べて片付けることが当たり前になっている。カプラ遊びを通して下のクラスには見本を見せて教えてあげる、上のクラスでは見て学び異年齢児との関わり方を学ぶことが出来たように感じる。ただタワーを作るのではなく、繋げて遊びを広げることが定着しているように感じる。

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0909
施設名	小松川おひさま保育園
施設所在地	江戸川区
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

造形あそび (カプラ)

5歳児 ひまわり組

<テーマの設定理由>

・友達と一緒に作る中で、試行錯誤したり、じっくりと取り組みできたという成功体験を味わえるよう。

## 2. 活動スケジュール

2025/8/6 9/4 9/18 9/24 10/2 11/19 11/21 11/25 12/11 12/17 12/18 2026/ 1/14 1/15

1/21 1/26 1/27 2/2 2/18 2/20 2/26 3/3 3/5

日々の自由遊びの中でもカプラ遊びを取り入れている

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・カプラが継続して遊べるようにコーナーを用意した。
- ・他クラスからもカプラを借り遊べるようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・保育室やホールを使いイメージを膨らませながらカプラを積み重ねタワーを作ったり、色々な組み合わせをしていく事で町を作っていた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・自分の背丈よりも高く積み上げようとしていた。  
・一人で黙々と作る子どもがいる反面、友達と協力して作る子どもがいた。  
・出来上がっていく過程を保育士に知らせ共有したい子どもが多かった。  
・作っている中で友達がぶつかって壊れてしまうと壊れてしまい落ち込んでしまった時は、もう一度作ろうと保育士が声掛けると気持ちを切り替えていた。  
・保育士も一緒に積み上げ遊んで行く中で、何を作っているのかイメージを共有するように関わった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・カプラのルールを伝えないと乱雑に扱ってしまっていた。  
・子ども同士で話し合い遊んでいた。  
・年長になると1000ピースでも足りなくなっていた。  
・見本を掲示してあるが、自由な発想で作りあげていた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0909
施設名	小松川おひさま保育園
施設所在地	江戸川区
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

造形あそび (廃材遊び)

- ・イメージを膨らませながら素材を組み合わせ、自由に製作する事を楽しむ
- ・5歳児 ひまわり組

<テーマの設定理由>

- ・身近な素材に親しみ、物を大切にする心や環境への関心を育む

## 2. 活動スケジュール

- ・2025/5/7 7/16 8/18 8/27 9/26 10/6 11/18 12/9 2026/1/14 2/6 3/10
- 日々の遊びの中でも廃材遊びを取り入れている。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・職員が自宅から廃材を持ってきたり、保育園で使用済みの箱ティッシュ・トイレットペーパー 養生テープ・ガムテープ・毛糸・廃材制作が出来るコーナー設定

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・ 廃材を使いイメージを膨らませ自由な発想で作品を作り上げていく

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 使いたい廃材が重なり取り合いになり保育士が皆で使うようにするにはどうしたらいいか伝えると、話し合いをして折り合いを付けていた。
- ・ 集中して作り上げる子どももいれば、制作が苦手で作り出せない子どももいたので、作るのが苦手な思いに共感し色を塗って見たらどうか?等アドバイスをして作り出せるようにした。・子ども同士で作った物を見せ合い遊んでいた。
- ・ 何を作ったのか保育士に見せにきていたので、頷き共有し達成感を味わえるようにした。
- ・ 保育士と一緒に作っていると何を作っているのか聞き興味を示していた。
- ・ テープが切れない子どもがいると、出来る子どもが切ってあげていた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 子ども達の創作意欲を引き出していけるように保育士がアドバイスをすることでさらに子ども達が意欲的に作っていた。
- ・ 保育士が手を出し過ぎない事で子ども同士で助け合っていた。
- ・ 友達が作っている事で刺激を受けて廃材制作を行う子どももいた。
- ・ 同じ物を作っている一人ひとりアイデアがあり個性が出ていた。